

徵
代

貳 第一〇三五號 其二

軍
和昭
10.5.25
前午
參官臣

陸
軍

教庶第一〇三一號

陸軍現役將校學校配屬令中改正ノ件回答

昭和十年五月廿四日

教育總監真崎甚三郎

陸軍大臣 林銑十郎殿



陸普第二九〇六號ヲ以テ照會ニ係ル首照ノ件當方異存無之

大佐田結環以下八名ニ靖國神社臨時祭委員ヲ命セラレ又向委員附トシテ陸軍

式
一〇三五



陸軍

參謀
本部
庚日第 二 號

陸軍現役將校學校配屬令中改正ノ件回答

昭和十年五月二十四日 參謀總長 載 仁 親

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



首題ノ件ニ關シ五月二十二日陸普第二九〇六號ヲ以テ照會ノ趣異存
ナシ



大臣ヨリ參謀總長、教育總監宛照會案

陸普

青年學校教練科等査閲令別紙ノ通閣議ヲ請フ
コトト致度ニ付至急御意見見承リ度

陸普第三九九號

昭和十年七月十二日

(右異存ナキ回答アリタル後)

閣議請議案

陸普

青年學校教練科等査閲令別紙ノ通制定致度
理由書相添ハ閣議ヲ請フ

陸普第四一三一號 昭和十年七月十六日

4 寫眞撮影ニ關スル事項

5 一般ノ取締、車馬ノ整理、憲兵及警察官ニ關スル事項

6 消防ニ關スル事項

7 救護衛生ニ關スル事項

8 臨時構築物（塙、聲機等含む）ニ關スル事項

次官ヨリ海軍、文部、外務、拓務、次官並対満
事務局次長宛照會案

陸普

青年學校教練科等査閲令別紙、通閣議ヲ
請ハレタルニ付御意見有之ヲ節々直接内
閣法制局へ申出ララルル様致度

陸普第四一三一號 昭和十年七月十八日



官二、隨輪船登陸者、關東鐵道職員一、南滿洲鐵道職員六、海軍二〇、於縣管警察
合師之人員、今回、事變關於警備軍十六三、

理由書

昭和十年四月ヨリ實業補習學校及青年訓練
所廢止セラシ青年學校制度制定セラレタル
ト其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上
ト認定シタル學校、對シテモ勅令ニ據ル教
練査閲ヲ實施スルヲ妥當ト認メタルニ由
ル

祀通知並ニ參拜案内狀ハ三月三十日迄ニ發送セリ（維新殉難者一名ハ四月六

昭和拾肆年七月貳日

朕青年學校教練科等查閱令ヲ發可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年八月九日

內閣總理大臣

海軍大臣

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

拓務大臣

勅令第二百四十九號

青年學校教練科等查閱令

陸軍大臣ハ陸軍現役將校ヲシテ青年學校令又ハ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ニ於ケル教練科及兵役法施行令第三十一條第三

從依於勅軍施但配查 查配但施軍勅於依從

参考

(本籍) 陸軍省令第一號

陸軍省令第一號

兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通
定ム

昭和十年六月五日

陸軍大臣 林 銑 十 郎

文部大臣 松 田 源 治

第一條 左ノ各號ニ掲グルモノハ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ム
ル課程トス

一 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ノ課程ト認メタル
課程

二 昭和四年朝鮮總督府令第八十九號青年訓練所規程ニ依ル青年

訓練所ノ課程（同規程第十三條第二項ノ規定ニ依ルモノヲ除ク）
一 及同規程第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ於テ之ト同等以上
ト認メタル課程

三 昭和六年臺灣總督府令第七十三號ニ依ル公立ノ青年訓練施設
ノ課程及臺灣總督ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

四 滿洲國駐劄特命全權大使又ハ關東州廳長官ニ於テ昭和十年勅
令第九十一號ニ依ル青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程

五 樺太青年訓練所規程ニ依ル青年訓練所ノ課程及同規程第九條
ノ規定ニ依リ樺太廳長官ニ於テ之ト同等以上ト認メタル課程

六 現役將校ヲ配屬シタル學校ノ課程

七 現役將校ヲ配屬セザル官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學

校ノ課程

八 陸軍大臣及文部大臣ニ於テ指定シタル學校ノ課程

第二條 前條各號ニ掲グル課程中地方長官、朝鮮總督、臺灣總督、

滿洲國駐劄特命全權大使、關東州廳長官又ハ樺太廳長官ニ於テ認定シタルモノハ其ノ認定ニ關シ課程ノ認定ヲ受ケタル學校所在地所管ノ師團長、臺灣軍司令官又ハ關東軍司令官ニ協議シタルモノタルベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校令施行前ニ於テ青年訓練所規程第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メシレタル課程ハ之ヲ本令第一條第一號

ニ掲グル課程ト看做ス

昭和十年勅令第九十一號施行前ニ於テ關東州及南滿洲鐵道附屬地青年訓練所規則第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ之ヲ本令第一條第四號ニ掲グル課程ト看做ス

(参照)

昭和十年四月二十日公布勅令第九十一號ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル青年學校ニ關スル件及同六年^{十二}月^{十二}臺灣總督府令第七十三號ハ臺灣ニ於ケル公立ノ特殊教育施設ニ關スル件ナリ

一名ニシテ何レモ内外科ノ中輕症患者ナリシヲ以テ手當後退所セリ

右ノ外參拜遺族左記二名ハ各領書ノ病氣ニ罹リ入院治療ヲ要スルニ付委員

朕青年學校教練科等查閱令ヲ發可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣

海軍大臣

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

拓務大臣

勅令第 號

青年學校教練科等查閱令

陸軍大臣ハ陸軍現役將校ヲシテ青年學校令又ハ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ニ於ケル教練科及兵役法施行令第三十一條第三

項ノ規定ニ依リ其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル
學校ハ陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號
ニ依リ陸軍現役將校ヲ配屬シタル學校、陸軍現役將校學校配屬令第
五條第一項ニ掲グル學校及陸海軍所屬ノ學校ヲ除クニ於ケル青年
學校教練科相當科目ニ關スル査閲ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年勅令第七十八號ハ之ヲ廢止ス

參 考

大正十五年勅令第七十八號

陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ青年訓練所令又ハ昭和二年勅令第三百三十

八號ニ依リ設置シタル青年訓練所ニ於ケル教練ヲ査閲セシムルコト
ヲ得

大正十四年勅令第二百四十六號ハ文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役
將校ヲ配屬スルノ件ナリ

式第一四二號

本部 庶日第一 號



陸軍

青年學校教練科等查閱令ニ關スル件回答

昭和十年七月十七日

參謀總長 載

仁

親

王

陸軍大臣 林 銑十郎殿



首題ノ件ニ關シ七月十二日陸普第三九九九號ヲ以テ照會ノ趣具存ナシ

式 第二四二二 號 其一

教庶第一四二六號

青年學校教練科等查閱令ニ關スル件回答

昭和十年七月十五日

教育總監 眞崎 甚三郎

陸軍大臣 林 銑十郎殿

七月十二日附陸普第三九九九號照會ニ係ル首題ノ件異存ナシ



陸軍



九月九日

四

兵務
陸軍

閱

陸軍領武第一七八八

永命

教廣第一七六六號

步兵通信教育規定一部改正ノ件
通牒

昭和十年九月三日

教育總監部本部長 林 桂

陸軍次官 橋本虎之助殿

步兵通信教育規定ノ一部ニ別紙ノ如ク改正セラル
レタルニ付依命通牒ス

(別紙一部添付)

九印者深ニ記ス保者

此等ノ通牒

陸軍 昭和 10.9.6. 前午 大官 臣

陸軍 昭和 10.9.6. 前午 大官 臣

副官ヨリ第八師團參謀長へ通牒案

陸 普

明治四十四年四月陸普第一二三四號ニ依リ騎兵第三旅團ニ於テ實
施シアル盛岡高等農林學校在學陸軍獸醫部依託生徒ニ對スル軍事
教育ハ引續キ貴師團部隊ニ於テ實施スル様取計相成度依命通牒ス
追テ軍事教育ニ要スル往復ノ旅費ハ實費ヲ支給スルコトニ定メ
ラレタルニ付承知相成度

陸普第五三三二二號 昭和十年九月廿一日

同件副官ヨリ盛岡高等農林學校長へ通牒案

騎兵第三旅團ニ於テ實施シアリシ貴校在學陸軍獸醫部依託生徒ニ
對スル軍事教育ハ引續キ第八師團ニ於テ實施セシメラルルニ付承
知相成度

陸普第五三三二二號

昭和十年九月廿一日

盛岡市
盛岡高等農林學校長 上村勝爾



陸 普
陸 普
陸 普

理由

教育擔任部隊タリシ騎兵第三旅團カ滿洲派遣トナリシコト及軍事教育ニ要スル往復旅費ノ實費支給ハ昭和六年七月二日陸普第二八八〇號ニ依リ北海道帝國大學（札幌）在學陸軍獸醫部依託學生カ第七師團部隊（旭川）ニ於テ軍事教育實施ノ際ハ其ノ往復旅費ノ實費ヲ支給シアル爲ニ因ル

盛岡高等農林學校在學ノ獸醫部依託生徒
ハ毎年概テ六名トス

汽車賃 自盛岡 至弘前 尚往復 三等入 六四一八

(參考)

陸普第一二三四號

陸軍獸醫部依託生徒軍事教育ニ關スル件

明治四十四年四月八日

陸軍次官

第八師團參謀長

貴師團騎兵第三旅團ニ於テ盛岡高等農林學校在學陸軍獸醫部依託生徒ニ左記要領ニ據リ學校長ト協議シ軍事教育ヲ實施スル様取計相成度候也

兵部省左ノ旨記

- 一、教育實施期ハ甲農林學校夏季休暇間ニ於テ三週間(約七十時間)
- 二、生徒ハ日々騎兵聯隊ニ通學セシム
- 三、教育課目

「技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ技術部隊ニ於ケル教育規則」
 ヲ「技術ニ従事スベキ航空兵科以外ノ各兵科幹部候補生ノ陸軍造兵
 廠ニ於ケル教育規則」ニ改ム

第一條中「各兵科」ノ下ニ「（航空兵科ヲ除ク以下同ジ）」ヲ加ヘ

「技術部隊」ヲ「陸軍造兵廠」ニ改ム

第二條 技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ陸軍造兵廠ニ於ケル

教育擔任區分ハ附表第一ニ依ル

第三條乃至第五條中「技術部隊」ヲ「陸軍造兵廠」ニ改ム

附表第一中「小倉工廠東京兵器製造所」及「（東京兵器製造所ヲ除

ク）」ヲ削ル

附表第二中「技術部隊ニ於ケル教育科程表」ヲ「陸軍造兵廠ニ於ケ

ル教育科程表」ニ改ム

附 則

航空兵科ニ關スル改正規程ハ昭和十一年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(小林又七印行)

五四

保存期限 永久 決裁指定

房官臣大		課局務主		局長	件名	番受
了結	領受	出提	領受			
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	局長	鐵道敷設草案鐵道橋梁同理由書 及鐵道敷設草案等車身設備 同理由書	貳第 九六五號
(裁決行決 覽回後)		帶連		課長務	官級	起元應(課名)
局長		局長		牛島	官	教育總監部
局長		局長		主務課員	書記官	郵賦件
局長		局長		主務副官	永命	陸軍省 10.8.12 第105號 器材課
局長		局長		田中		陸軍省 10.8.5. 防備課

政務大官回付 決裁前後連帶 (軍防)

決行(決裁)後 回覽課名
陸軍省 10.8.8. 第36號 勅員課
陸軍省 10.7. 19 軍事課
陸軍省 10.8.5. 防備課

陸軍省

副官官上關係陸軍部隊通案

(陸普)

一、鐵道教範草案

鐵道橋 陸普第五七四三號 昭和十年十月九日

二、鐵道教範草案

鐵道橋 編纂理由書 陸普第五七四五號

三、鐵道教範草案

停車場設備 第五七四二號 昭和十年十月九日

右刻一或二付配賦又

停車場設備 編纂理由書 陸普第五七四四號 昭和十年十月九日

作文上、注意

(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) 各別ニスルモノトス

追、別紙配賦区分表、通印刷、上配賦相成度

十月十日送



陸軍省

陸軍省



二字削除

大臣ヨリ教育總監ニ回答奉ル

首題ノ件ニ關シ五月十日附教度第九二六號ヲ

以テ照會ノ趣異存無シ假頒布方取計ト書キテ

ルニ付承知セラレ度

陸普第五八九七號 昭和十年十月十五日



陸 軍



陸軍
九六五
號

教庶第九二六號

鐵道教範草案 鐵道橋、全 停車場設備 編纂ノ件照會

昭和十年五月十日

教育總監 眞崎甚三郎

陸軍大臣 林銑十郎殿



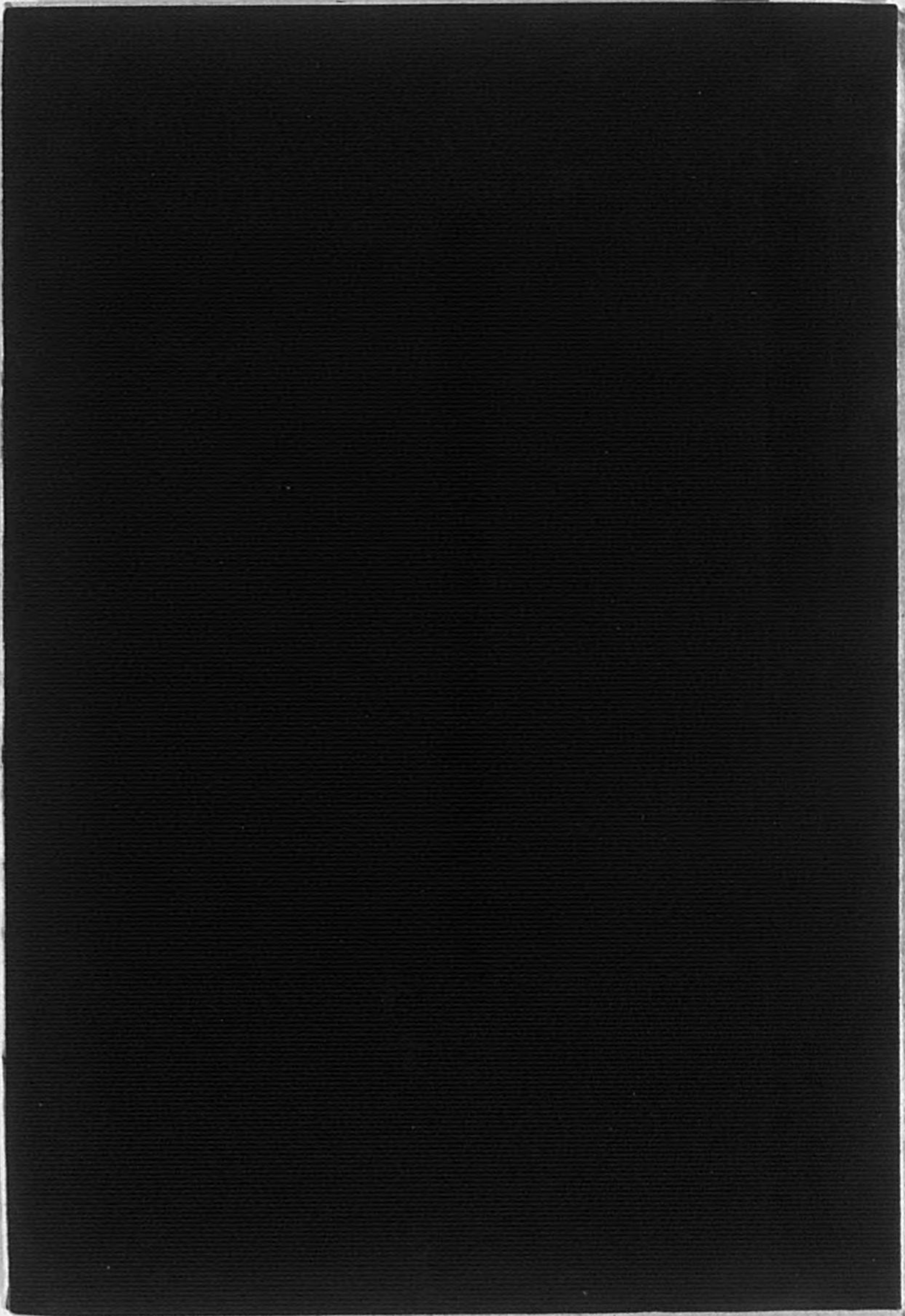
鐵道教範草案 鐵道橋、全 停車場設備 別冊ノ通編纂致度ニ付意見承知致

追テ參謀總長トハ協議濟ニ付異存無之ハ假頒布相成度



陸軍





鐵道教範草案停車場設備編纂理由書

- 一 本理由書ハ鐵道教範草案停車場設備ニ關スル編纂ノ要點及理由ノ概要ヲ記述ス
- 二 鐵道教範草案ノ編纂一般ノ要領、編纂ノ要點及理由ノ概要ハ昭和七年六月鐵道教範草案^{總則及測量}編纂理由書ニ據ル

全般ニ關スル事項

- 一 軍用停車場ノ設備ハ簡易且最小ノ施設ヲ以テ軍隊及軍需品輸送ノ諸要求ヲ充足セシメ以テ作業ヲシテ神速機敏ナル作戰ニ即應セシムルコトニ勉メタリ
- 二 停車場ノ利用、改築、破壞及修理ノ要領ヲモ記述シ作戰地在來ノ鐵道利用等ニ遺憾ナカラシム
- 三 學理及細部ノ技術ニ關スルコトハ附録トシ本文ハ勉メテ平易簡明ナラシメ理解ヲ容

通 則

- 一 軍用停車場設備ハ軍隊及軍需品輸送ノ諸要求ヲ充足セシムルヲ主眼トスルモノニシテ一般鐵道ノ停車場設備ト其趣ヲ異ニスル點アルヘキヲ以テ特ニ其趣旨ヲ明示セリ
(第一)
- 二 軍用停車場設備要領ノ決定上準據スヘキ事項ヲ示シ特ニ簡易且最小限ノ施設ヲ以テ其能力ヲ發揮シ神速ナル作戰ノ要求ニ應スル如ク著意スルノ必要ヲ強調セリ(第二)
- 三 作戰地ニ於ケル既設鐵道利用ニ方リ在來ノ停車場設備ニ補足、改築、修理等ヲ施スヲ要スルコト屢、アルヘキヲ示シ其場合ニ於ケル増設、改修實施上ノ準繩ヲ明ニセリ
(第三)

四 本教範草案ノ内容ノ範圍ニ就キ記述セリ(第四)

第一篇 停車場設備ノ要素

通 則

一 停車場ニ於テ運轉、交通其他ノ爲ニ要スル設備ノ種目ニ就キ記述シ此等ノ諸設備ハ停車場使用ノ目的ニ依リ要否、精粗ヲ異ニスルヲ以テ構築ニ方リテハ其選擇ヲ適切ニシ勉メテ簡易ナラシムルノ注意ヲ明示セリ(第五)

第一章 運轉設備

第一節 軌道設備

一 停車場ニ於ケル軌道ノ主ナルモノハ搭載、卸下ニ要スル軌道列車ノ交換、超越並組成ニ要スル軌道及給炭水場、機關庫、修理工場ニ通スル軌道トシ其設備ニ方リテハ目

- 的ニ依リ必要ナルモノヲ設備スヘキモノトス(第六)
- 二 停車場軌道ニ關スル用語ヲ統一規定セリ(第七)

第一款 配 線

- 一 本線及待避線配線ノ原則ヲ示ス(第八)
- 二 組立仕分線配線ノ要領ヲ示ス(第九)
- 三 突込線ノ目的及配線要領ニ就キ記述シ且積卸用突込線、組立仕分線ニ接スル突込線及待避線ノ補足トシテ設ケタル突込線ノ一例ヲ示セリ(第十)
- 四 停車場ニ於ケル隣接兩軌道軸相互ノ間隔ニ就キ規定セリ(第十一)
- 五 修理線ノ目的及配線要領ニ就キ記述セリ(第十二)
- 六 給水線及機關庫線ノ意義並其配線ノ要領ニ就キ記述セリ(第十三)
- 七 工場線配線ノ要領及其線長並配線上顧慮スヘキ事項ヲ說述セリ(第十四)

八 停車場諸軌道ノ配線上一般ニ注意スヘキ事項ヲ記述シ計畫ノ資ニ供セリ(第十五)

第二款 軌道連絡

- 一 停車場ニ於テ軌道相互ヲ連絡シ以テ列車、車輛ヲ一ノ軌道ヨリ他ノ軌道ニ入換シ又ハ其方向ヲ變換セシムル爲ノ設備ノ種類ニ就キ記述セリ(第十六)
- 二 轉轍ノ意義及構造ニ依ル區分ニ就キ記述セリ(第十七)
- 三 轉轍構成一般ノ要領ヲ示ス(第十八)
- 四 直線轉轍ニ就キ記述シ右轉轍、左轉轍ノ區分ヲ定義セリ(第十九)
- 五 特別轉轍ノ各種類ヲ區分說述セリ(第二十)
- 六 渡線設備ノ要領ヲ示ス(第二十一)
- 七 多數ノ平行軌道ヲ各轉轍裝置ニ依リ斜ニ連接スル場合ノ軌道ノ名稱ヲ定義セリ(第二十二)

- 八 轉車臺ノ目的及設備要領ヲ記述セリ(第二十三)
- 九 松葉線及環狀線ノ目的並設備要領ニ就キ記述セリ(第二十四)
- 十 遷車臺ニ就キ記述セリ(第二十五)

六

第三款 車駐及警標

- 一 車駐トハ列車、車輛ヲ阻止スル保安ノ設備タルコトヲ説明シ之ヲ突込線、機關庫線ノ端末ニ設クルコトヲ明示ス(第二十六)
- 二 車駐ノ結構法ヲ記述セリ(第二十七)
- 三 警標ノ目的及設置ノ位置ニ就キ記述セリ(第二十八)

第二節 通信保安設備

- 一 軍用列車ノ保安ハ電話連絡及手合圖ニ依ルヲ本則トスルモ信號機ヲ有スル場合ニ於

- テハ之ヲ使用スルコトアル旨記述セリ(第二十九)
- 二 信號機ノ用途及種類ニ就キ説明ス(第三十)
 - 三 各種常置信號ノ結構ニ就キ記述セリ(第三十一)
 - 四 臨時信號ノ目的及設置位置ニ就キ記述シ使用上ノ準據ヲ與ヘタリ(第三十二)
 - 五 停車場ノ照明設備ノ方法ヲ示ス(第三十三)

第三節 給炭水設備及機關庫

第一款 給炭水設備

- 一 給炭水設備一般ノ區分ニ就キ記述セリ(第三十四)
- 二 給水装置ハ水源ヨリ水ヲ揚水スル装置ト水ヲ機關車ニ供給スル爲高所ニ貯藏スル装置トヨリ成ル前者ヲ揚水機、後者ヲ貯水槽ト稱ス(第三十五)
- 三 貯水槽構造法ヲ例示セリ(第三十六)

- 八
- 四 貯水槽ノ容積決定ニ就キ記述シ設計ノ準據タラシメタリ(第三十七)
 - 五 貯水槽ニ附屬スヘキ給水栓ノ結構ニ就キ記述セリ(第三十八)
 - 六 貯水槽ヲ設置スヘキ位置竝設置ノ要領ニ就キ記述セリ(第三十九)
 - 七 給水ノ要領ニ就キ記述セリ(第四十、第四十一、第四十二)
 - 八 嚴寒地ニ設置スル給水設備ニハ水ノ凍結ヲ防クノ手段ヲ必要トスルヲ以テ防寒ノ處置ニ就キ記述セリ(第四十二)
 - 九 給炭設備ノ要領ヲ記述セリ(第四十四)
 - 十 石炭置場ノ設備要領ヲ記述セリ(第四十五)

第二款 機關庫

- 一 機關庫ノ用務ト設備事項トヲ示セリ(第四十六)
- 二 機關庫ハ機關車ノ運用、給炭水等ノ關係ヲ顧慮シ所要ノ停車場ニ設ケ又停車場内ニ

- 於ケル機關庫位置選定ニ方リテハ本線ヘノ出入容易ニシテ列車、車輛ノ爲運行、入換ノ制限ヲ受ケサル如ク願慮スルコト必要ナリ(第四十七)
- 三 機關庫ノ大サ及形狀決定ノ要領ヲ記述セリ(第四十八)
 - 四 機關庫ノ構築ニ方リ願慮スヘキ事項ヲ記述シ其準據ヲ示セリ(第四十九)
 - 五 機關庫内ニ於ケル掃除溝ノ必要及構造ノ一例ヲ示セリ(第五十)

第四節 工場設備

- 一 工場設備ノ細部ニ關スル事項ヲ總テニ互リ輯録スルコトハ複雑ニ過クルヲ以テ本節ニハ其大要ノ記述ニ止メタリ
- 二 工場ハ之ヲ材料廠工場ト機關庫工場トニ區分シ其設備ノ要領ヲ異ニスルモノトス(第五十一)
- 三 材料廠工場ノ任務ヲ記述ス(第五十二)

- 四 材料廠工場設備ノ要領ヲ記述セリ(第五十三)
- 五 材料廠工場ノ廣サ及軌道設備決定ノ基準ト要件トニ就キ建築初期ト運轉開始後トノ二時期ニ區分シテ明示セリ(第五十四)
- 六 機關庫工場設備ノ要領ヲ示ス又機關庫工場ニテ車輛修理ヲ擔任セシムルコトアルヲ以テ之ニ關シ附記セリ(第五十五)

第二章 交通設備

第一節 積卸場

- 一 軍用停車場ニハ軍需品ノ積載、卸下又ハ轉載ノ設備ヲ構築スルニ止メ人員乗下車ノ設備ハ之ヲ設ケサルヲ通常トスル趣旨ヲ明示セリ(第五十六)
- 二 積卸場構築用材料ニ就キ記述シ特ニ土製積卸場ヲ設クル場合ニ於テハ大ナル土工ヲ要スルコトニ注意スヘキ旨附記セリ(第五十七)

- 三 積卸場ノ高サ及軌道トノ離隔寸法ニ就キ基準ヲ示セリ(第五十八)
- 四 土製積卸場構築上ノ注意ヲ示ス(第五十九)
- 五 積卸場ノ位置選定上ノ注意ヲ示ス(第六十)
- 六 積卸場構築ノ時間ニ餘裕ヲ有セサルトキハ鐵道搭卸具、急造斜板ヲ使用シテ積載、卸下スルノ必要ヲ記述セリ(第六十一)
- 七 軍需品特ニ重量大ナルモノヲ迅速容易ニ積載、卸下スルニハ起重機ヲ利用スルノ必要ナルコト及起重機ノ結構法ニ就キ記述セリ(第六十二)

第二節 建築物及補助設備

- 一 停車場ニ設クル建築物ハ運轉勤務、通過軍隊ノ給養及軍需品ノ集積用トス(第六十三)
- 二 運轉勤務ニ必要ナル建築物ノ種類ニ就キ記述セリ(第六十四)

- 三 停車場ノ事務所、通信所ノ設備要領ヲ示ス(第六十五)
- 四 軍隊ノ集合場、馬繋場設備ニ就キ記述セリ(第六十六)
- 五 停車場内排水設備ノ必要及方法ヲ示セリ(第六十七)

第二篇 停車場ノ施設

通 則

- 一 本篇ニ於テハ停車場ノ任務及位置ニ依リ停車場ヲ區別シ其施設法ヲ示スコトトセリ(第六十八)
- 二 停車場ヲ構築スルニ方リテハ速ニ主要交通線ヲ完成シテ取り敢ヘス運轉ヲ開始シ逐次他ノ施設ニ及スヲ本則トスヘキ趣旨ヲ明示シ構築ノ方針決定ノ準據ヲ與ヘタリ(第六十九)
- 三 停車場ノ施設ニハ線路建築中ニ必要ナルモノト定期運轉開始後ニ必要ナルモノトア

リテ兩者ノ轉換ニ方リ施設ノ變更ヲ要スヘキ部分アルヘシ故ニ豫メ此等ヲ綿密ニ計畫シ順序、方法ヲ適切ニ選定スルコトノ必要ヲ記述セリ(第七十)

四 停車場ニ設備スヘキ軌道數決定一般ノ要領ニ就キ記述セリ(第七十一)

五 停車場ノ敵航空機ニ對スル處置ニ就キ注意ヲ喚起セリ(第七十二)

第一章 發起點ノ設備

要 則

- 一 軍用鐵道ハ既設鐵道ノ停車場若ハ揚陸地タル港灣、河岸ニ發起スルヲ通常トスルヲ以テ發起點設備ハ通常之ニ接續シテ設備スヘキヲ示セリ(第七十三)
- 二 發起點ニ施設スヘキ各種設備ノ種目ヲ示セリ(第七十四)

第一節 接續設備

- 一 既設鐵道ニ連接シテ發起點ヲ設クルニハ既設設備ヲ利用シテ軌道連絡ヲ爲スカ或ハ該停車場ヨリ線路ヲ延長シテ適宜ノ地點ニ於テ接續スルモノニシテ其區分ニ依リ施設法ヲ異ニスルモノトス(第七十五)
- 二 發起點ヲ既設鐵道ニ連接シテ設クル場合ノ接續設備ノ要領ヲ記述ス(第七十六乃至第七十八)
- 三 接續設備ヲ港灣、河岸ニ連接シテ設定スル場合ノ施設要領ヲ記述セリ(第七十九)

第二節 發起停車場設備

- 一 發起停車場ノ位置選定ノ要領ヲ示セリ(第八十)
- 二 發起停車場ニ設備スヘキ主要線路及建築物等ニ就キ記述セリ(第八十一)

第三節 材料廠設備

- 一 鐵道建築當初發起點材料廠ニ設クル主ナル設備ニ就キ記述ス(第八十二)
- 二 線路完成シ正規ノ運轉開始後ニ於テ必要ナル設備ニ就キ記述セリ(第八十三)

第二章 行違停車場及給水停車場

- 一 行違停車場施設ノ要領ヲ示ス(第八十四)
- 二 給水停車場施設ノ要領ヲ示ス(第八十五)
- 三 給水停車場設定位置ニ就キ記述セリ(第八十六)

第三篇 停車場設備ノ利用、改築、破壊及修理

通 則

- 一 作戰地ニ於ケル停車場ノ利用、改築、破壊又ハ修理ノ爲事前ニ於ケル研究、準備ノ

必要ヲ述ヘ某地方ニ於ケル停車場ノ形式及轉轍ノ一例ヲ示セリ(第八十七)

第一章 利用、改築

- 一 停車場ヲ利用スルニハ其目的、使用期間ノ長短、輸送量等ニ依リ利用ノ方針ヲ決定セサルヘカラス(第八十八)
- 二 停車場設備ノ補足、改築ニ方リテハ先ツ速ニ主要幹線ヲ完成セシムルヲ主眼トシ利用ノ目的ニ合致シ且輸送效程ヲ増加スル如ク其他所要ノ施設ヲ施スヘキモノトス(第八十九)
- 三 停車場利用ノ爲軌道設備ノ擴張ニ方リ顧慮スヘキ要件ヲ示シ計畫立案ノ準據トセリ(第九十)
- 四 積卸場ノ延長若ハ新設ニ方リ其長サ決定ノ要領ヲ記述セリ(第九十一)
- 五 給炭水設備増設及新設ニ就キ記述セリ(第九十二)

- 六 集落地、集積地ノ増、新設及乗降場、積卸場トノ出入路ノ構築ニ方リ注意スヘキ要件ヲ示ス(第九十三)
- 七 補給輸送ノ場合ニ於ケル倉庫設備ノ必要ニ就キ記述セリ(第九十四)
- 八 通過軍隊ノ給養ヲ擔任スヘキ停車場ニ増設スヘキ施設ニ就キ記述シ寒地極寒時ノ停車場ニハ湯茶供給ノ設備ヲ爲スヲ可トスルコトアルヲ附記セリ(第九十五)
- 九 負擔力ヲ異ニスル兩種ノ軌道ヲ有スル接續停車場ニシテ劣等線路ニ優等列車ヲ交通セシメントスル場合ノ軌道效力増加ノ方法ヲ記述セリ(第九十六)
- 十 軌間ヲ異ニスル鐵道ノ連接ニ就キ記述セリ(第九十七)
- 十一 機關庫附屬工場ニ修理施設ヲ増設スルヲ有利トスル場合アルヲ以テ其要領ヲ示セリ(第九十八)
- 十二 修理工場ノ利用ニ方リ補足擴張ノ要領ニ就キ記述ス(第九十九、第百)

第二章 破壊

- 一 停車場設備破壊ノ方法及程度決定上ノ要件ヲ記述シ計畫立案ノ準據トセリ(第百一)
- 二 停車場ノ破壊ニ先タチ他ノ停車場トノ連絡施設ヲ遮斷スルト共ニ赴援ヲ防止セハ效果大ナルヲ以テ其方法ニ就キ記述セリ(第百二)
- 三 停車場ヲ根本的ニ破壊セントスル場合ノ破壊法選定ノ要領ヲ示ス(第百三)
- 四 運轉設備ノ破壊箇所ノ選定及其破壊法ニ就キ記述セリ(第百四)
- 五 輪轉器材ヲ不用ニ歸セシムル爲ノ破壊物ノ選定及其破壊法ニ就キ記述セリ(第百五)
- 六 將來我カ軍ノ使用ヲ顧慮シ一時敵ノ利用ヲ阻止セントスル場合ノ破壊特ニ轉轍、給水装置、信號、通信設備ノ重要部撤去搬送ノ要領ヲ詳述セリ(第百六)
- 七 停車場ニ隱密ニ障礙ヲ與ヘ列車ノ脱線ヲ企圖スル方法ヲ示セリ(第百七)
- 八 工場、機關庫ノ破壊要領ヲ示セリ(第百八)

第三章 修理

- 一 破壊セラレタル停車場設備修理ノ方法選定ノ要件ヲ示シ特ニ修理方針ハ作戰上ノ要求ニ應シ得ル如ク迅速ニ運轉能力ヲ恢復スルヲ本旨トスヘキヲ明示セリ(第九)
- 二 停車場設備ノ修理順序決定ノ原則ヲ示ス(第十)
- 三 軌道設備修理一般ノ方針及轉轍修理要領ヲ指示セリ(第十一)
- 四 給水装置ノ修理ハ多クノ場合多大ノ時間ヲ要スルヲ以テ其修理ニ方リテハ揚水機ヲ以テスル補助給水施設ノ必要ヲ高調セリ(第十二)
- 五 通信、信號装置ノ修理要領ニ就キ記述セリ(第十三)
- 六 機關庫ノ修理ニ方リテハ先ツ速ニ附屬工場ヲ修理シテ修理能力ノ復舊ヲ圖リ又破壊セラレタル轉車臺、遷車臺ニ對シテハ先ツ迂回線其他ノ補助軌道ノ構築ニ依リ應急手段ヲ講スルノ必要ヲ記述セリ(第十四)

七 工場設備修理ノ要領ヲ示ス(第百十五)

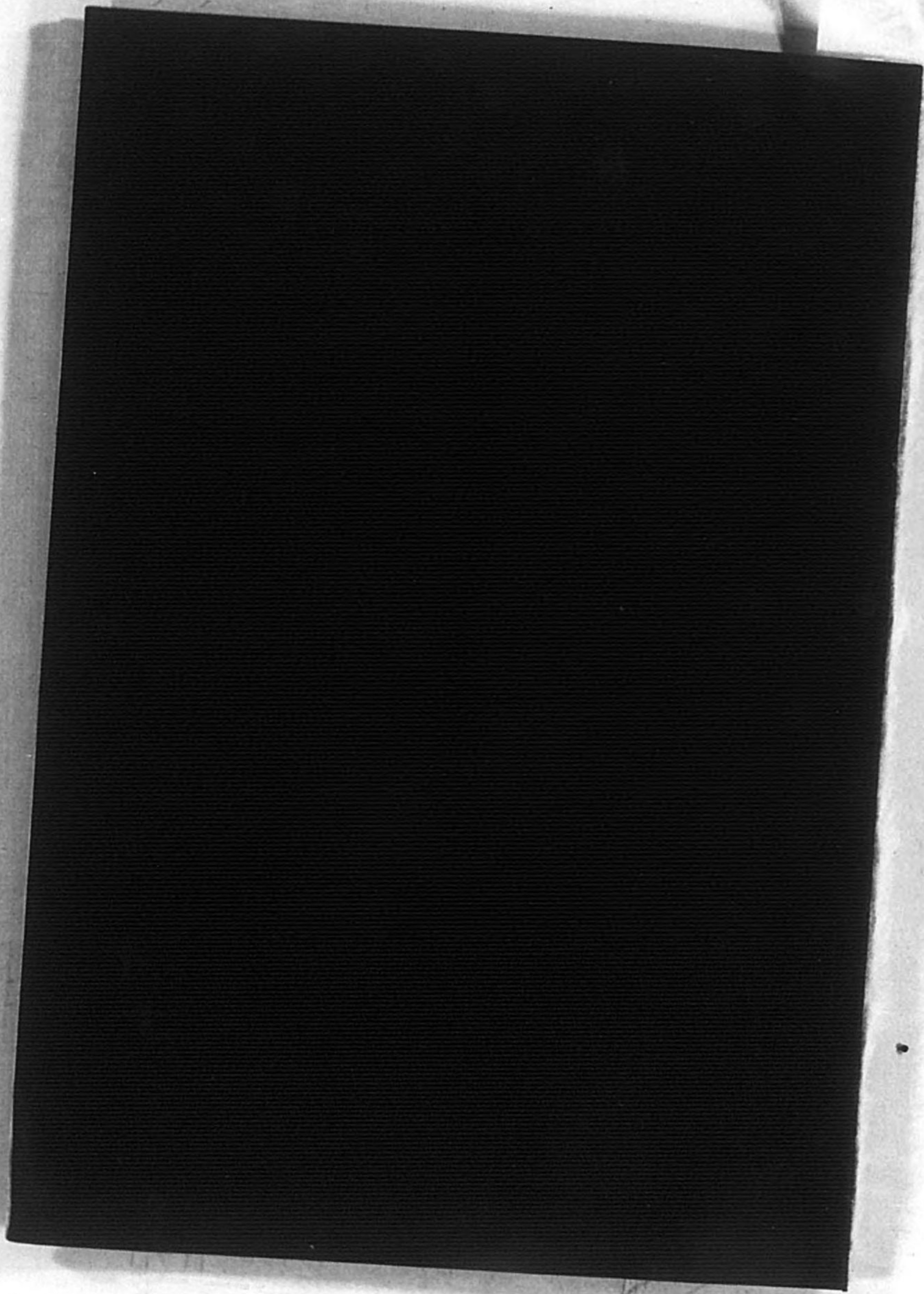
二〇

八 多數ノ停車場カ破壊セラレタル場合之ヲ修理スルニ方リテハ一部ヲ完全ニ修理セ
ントシテ全部ノ進捗ヲ害スルコトナク全般ノ狀況ヲ判断シ全線ニ互リ速ニ運轉能力ヲ
附與シ得ル如ク大局ニ著眼シテ修理ヲ行フノ必要ヲ述ヘタリ(第百十六)

附 錄

停車場設備中最モ重要ニシテ特ニ下士官以下ニ訓練スルヲ要スルモノハ轉轍ノ構築ナリ
トス故ニ附錄トシテ轉轍ノ構造、諸元、敷設法及修理ニ關シ詳記シ該作業計畫、實施ノ
基準トセリ

鐵道教範草案停車場設備編纂理由書 終



鐵道教範草案鐵道橋編纂理由書

- 一 本理由書ハ鐵道教範草案鐵道橋ニ關スル編纂ノ要點及理由ノ概要ヲ記述ス
- 二 鐵道教範草案ノ編纂一般ノ要領、編纂ノ要點及理由ノ概要ハ昭和七年六月鐵道教範草案^{總則及測量}編纂理由書ニ據ル

全般ニ關スル事項

- 一 主トシテ軍用鐵道建設ニ際シ急造スル鐵道橋ノ架設及既設鐵道橋ノ破壞竝破壞セラレタル鐵道橋ノ應急修理ノ方法ヲ記述シ作業ヲシテ神速機敏ナル作戰ノ要求ニ合致セシムルコトニ勉メタリ
- 二 鐵道橋構築ノ作業ハ狀況特ニ地障ノ景況、使用材料等ニ依リ著シク其要領ヲ異ニスルヲ以テ本教範草案ニ於テハ鐵道橋結構ノ基礎的事項及架橋一般ノ要領ヲ記述スルニ

共ニ路盤ト橋梁トノ接著ヲ密實ニスルコト必要ナリ(第六)

四

二 橋礎ハ桁材ヲ負擔接著スヘキ設備ト路盤ノ端末ヲ支撐被覆スヘキ設備トヨリ成リ其結構法ハ橋礎ヲ設クヘキ位置ノ土質ト桁ノ種類トニ適應スヘキモノトス(第七)

三 橋礎材ヲ地上ニ直接配置シテ設クル橋礎ノ結構法ヲ示ス而シテ此方法ハ張間小ニシテ且堅固ナル土地ニ適用スルモノトス(第八)

四 枕木、角材或ハ丸太ヲ積ミ重ネテ設クル橋礎ノ結構法ヲ示ス而シテ此方法ハ橋礎ヲ設クヘキ位置ノ土質堅固ナラサルカ或ハ急速ニ橋礎ヲ構築スル場合ニ適用スルモノトス(第九)

五 列柱ヲ打入シテ設クル橋礎ノ結構法ヲ示ス而シテ此方法ハ橋礎ヲ設クヘキ位置ノ土質特ニ堅固ナラサルトキ或ハ橋梁カ新ニ積堆セル築堤ニ接續スルトキニ適用スルモノトス(第十)

六 煉瓦又ハ「コンクリート」ヲ以テ構築スル橋礎ノ結構法ヲ示ス而シテ此方法ハ特ニ堅

固ナル支撐壁ヲ必要トシ且時日ノ餘裕アル場合ニ適用スルモノトス(第十一)

第二章 橋脚ノ結構

要 則

- 一 橋脚結構一般ノ要領ハ其兩側橋節ノ重量及列車重量ヲ負擔スルニ適應セシムルコト必要ナリ(第十二)
- 二 鐵道橋橋脚ノ種類及各種橋脚ノ利害ヲ示ス(第十三)
- 三 各種橋脚ノ選擇及結構法決定ノ條件ヲ明示ス(第十四)

第一節 列 柱

- 一 列柱組成一般ノ要領ヲ記述ス(第十五)
- 二 列柱ノ杭數決定ノ要件ヲ示ス(第十六)

- 三 列柱ハ杭ノ排列及構成ノ方法ニ依リ各様ノ形式アルヲ以テ之ヲ單列柱、複列柱、群列柱及重疊列柱ニ大別シテ記述セリ(第十七)
- 四 單列柱結構ノ要領ヲ示ス(第十八)
- 五 複列柱結構ノ要領ヲ示ス(第十九)
- 六 群列柱結構ノ要領ヲ示ス(第二十)
- 七 重疊列柱結構ノ要領ヲ示ス(第二十一)

第二節 架柱

- 一 架柱ハ列柱ニ比シ構築、設置容易ナルモ維持堅固ナラサルノ不利アリ故ニ底質堅固ニシテ植杭ニ便ナラサル場合ニ於テ乾燥セル地障或ハ流速並水深之ヲ許ス河川ニ用フルモノトス(第二十二)
- 二 架柱ノ種類ニ就キ記述ス(第二十三)

- 三 架柱ニ用フル材料ハ收集シ易ク且加工ノ少キコトヲ要件トシテ其種類ヲ記述セリ
(第二十四)
- 四 架柱各部ノ名稱ヲ規定セリ(第二十五)
- 五 多數ノ架柱ヲ用フル場合ニ於テハ其構築ヲ容易ナラシメ且架設ニ便ナラシムル爲形
式及高サヲ同一ニスルヲ可トス而シテ橋脚ノ高サニ應スル加減ハ其基礎ノ規正ニ依ル
モノトス(第二十六)
- 六 架柱脚材ノ排列法ヲ示ス(第二十七)
- 七 複架柱ノ排列法ヲ示ス(第二十八)
- 八 架柱ヲ一連ニ併列シ或ハ木材ヲ格子狀ニ接合連接シ一大架柱狀ニ結構シタル橋脚ヲ
特ニ架棧ト稱シ其結構法ノ大要ヲ示ス(第二十九)

第三節 匣臺及堆積枕木

- 三 列柱ハ杭ノ排列及構成ノ方法ニ依リ各様ノ形式アルヲ以テ之ヲ單列柱、複列柱、群列柱及重疊列柱ニ大別シテ記述セリ(第十七)
- 四 單列柱結構ノ要領ヲ示ス(第十八)
- 五 複列柱結構ノ要領ヲ示ス(第十九)
- 六 群列柱結構ノ要領ヲ示ス(第二十)
- 七 重疊列柱結構ノ要領ヲ示ス(第二十一)

第二節 架柱

- 一 架柱ハ列柱ニ比シ構築、設置容易ナルモ維持堅固ナラサルノ不利アリ故ニ底質堅固ニシテ植杭ニ便ナラサル場合ニ於テ乾燥セル地障或ハ流速竝水深之ヲ許ス河川ニ用フルモノトス(第二十二)
- 二 架柱ノ種類ニ就キ記述ス(第二十三)

三 架柱ニ用フル材料ハ收集シ易ク且加工ノ少キコトヲ要件トシテ其種類ヲ記述セリ

(第二十四)

四 架柱各部ノ名稱ヲ規定セリ(第二十五)

五 多數ノ架柱ヲ用フル場合ニ於テハ其構築ヲ容易ナラシメ且架設ニ便ナラシムル爲形式及高トノ同一ニスルヲ可トス而シテ橋脚ノ高サニ應スル加減ハ其基礎ノ規正ニ依ル

モノトス(第二十六)

六 架柱脚材ノ排列法ヲ示ス(第二十七)

七 複架柱ノ排列法ヲ示ス(第二十八)

八 架柱ヲ一連ニ併列シ或ハ木材ヲ格子狀ニ接合連接シ一大架柱狀ニ結構シタル橋脚ヲ特ニ架棧ト稱シ其結構法ノ大要ヲ示ス(第二十九)

第三節 匣臺及堆積枕木

- 一 匣臺及堆積枕木ハ軍用鐵道橋特有ノ橋脚ニシテ結構簡單、作業迅速容易ニシテ支撐堅確ナルヲ以テ鐵道橋ノ修理等迅速ヲ要スル作業ニ適用スルコト多シ
- 二 匣臺結構ノ要領ヲ示ス(第二十、第二十一)
匣臺ノ結構ハ流水アル河川ニ設クル匣臺ニ就キ示シタルモ乾燥地隙ニ設クル匣臺ニ在リテハ石材ニ代フルニ土囊ヲ以テシ或ハ編條ヲ以テ壁ヲ設クル等適宜應用ノ方法ヲ適用スヘキモノトス
- 三 堆積枕木結構ノ要領ヲ示ス(第二十二乃至第二十五)
從來堆積枕木ハ單ニ枕木ヲ雜然ト積ミ重ヌレハ足レリト解シ結構堅確ヲ缺キ爲ニ列車ノ通過ニ支障ヲ生セシコト少カラス作業迅速ヲ要スル場合ト雖常ニ本條所載ノ法則ヲ遵守シ其要部ハ堅固ニ結構セサルヘカラス

第三章 防護設備

一 本章ニ記述セル流木除トハ流木其他ノ流下物ニ對シ橋脚ヲ防護シ流水除トハ大ナル流水アル河川ニ於テ橋脚ヲ防護スル設備ナリ而シテ從來動モスレハ流木除ヲ以テ流水除ヲ兼ネシムヘシト解スル者アルモ大ナル流水ニ對シテハ流木除ヲ以テ之ニ抗シ得サルモノニシテ特種ノ結構ヲ必要トス但流水除ヲ以テ流木除ヲ兼ネシムルコトハ可能ナルヲ以テ兩者ニ對スル設備ヲ必要トスル河川ニ在リテハ流水除ノミヲ構築スヘキモノトス

二 防護設備ノ必要及其區分ヲ示ス(第三十六)

三 最モ簡單ナル流木除ノ結構ヲ記述セリ(第三十七)

四 流木多キ河川ニ於テ稍、堅固ニ構築スル流木除ノ結構法ヲ記述セリ(第三十八)

五 輕易ナル流水ニ對シテハ流木除ニ準シ結構シタル流水除ニテ可ナルモ大ナル流水多キ河川ニ於テハ特種ノ流水除ヲ必要トスル所以ヲ記述セリ(第三十九)

六 流水除ノ結構法ヲ示ス(第四十)

而シテ流水除ハ流水ノ撃突ニ抗スルニ止ラス之ヲシテ斜材上ニ乗リ上ケシメ自重ニ依

リ割裂シテ流下セシムルヲ最良ノ方法トス

七 流水ノ衝擊ニ對シ流水除ヲ堅固ニ維持スルト共ニ流水ニ依リ杭ノ脚ヲ洗ハレサル如

ク捨石ヲ行フノ必要ヲ記述セリ(第四十一)

第四章 桁受及桁ノ結構

要 則

- 一 桁ハ通過列車ノ重量ニ抗スルト共ニ橋脚トノ接合確實ナル如ク結構スルコト必要ナ
リ(第四十二)
 - 二 鐵道橋ニ用フル桁ノ種類ヲ記述セリ(第四十三)
 - 三 各種桁選擇ノ要領ヲ記述セリ(第四十四)
- 桁ノ種類選擇ニ方リテハ其構築、架設ヲ迅速容易ナラシムルコトヲ主眼トシ現場ニ於

ケル加工少ク取扱簡易ナルコトニ注意スルコト必要ナリ

第一節 桁 受

- 一 桁受ハ桁ト橋脚トノ接合ヲ堅確ニスルト共ニ桁相互ノ連接ヲ確實ナラシムル爲ニ用フルモノトス
 - 二 桁ト桁受トノ接合ヲ確實ナラシムル爲兩者ノ断面ハ之ヲ同一ニシ少クモ幅ハ一致セシムルコトノ必要ヲ記述セリ(第四十五)
 - 三 桁受ノ長サノ標準ヲ示ス(第四十五)
 - 四 桁受ヲ冠材ニ取附クルニハ桁受ノ下面ヲ切缺キ冠材ニ嵌入セシメ錠又ハ「ボルト」ニ依リ固定スルヲ最良トシ時トシテ桁受ヲ切缺クコトナク冠材上ニ配置シテ錠又ハ「ボルト」ノミニ依リ固定ス
- 桁受ト桁トヲ連結ハ「ボルト」ニ依ルヲ最モ可トスルモ材料又ハ時間ノ關係ニ依リ錠ニ

依ルコトアルヲ以テ右各種ノ方法ヲ記述セリ(第四十六)

五 桁受ノ抗力ヲ増大スル目的ヲ以テ頬杖ヲ設クル場合ノ結構法ヲ記述ス(第四十七)

第二節 桁

第一款 單桁、重桁、組桁

一 單桁ハ角材、兩面ヲ附シタル丸太或ハ丸太等ノ簡單ナル材料ヲ以テ結構スルモノニシテ最モ短キ張間ノ橋梁ニ用フルモノトス(第四十八)

二 桁ノ配置法ヲ示シ之ヲ確實ニ端々相接著セシムル爲截斷ノ時機ニ關シ注意ヲ記述セリ(第四十九)

三 桁ノ接著接合ノ位置ヲ示ス又桁受ヲ用ヒシテ單一冠材ノ中央上ニ桁ヲ接著接合スルコトハ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トスルモ已ムヲ得ス之ヲ行フ場合アルヲ以テ其方法ヲ附記セリ(第五十)

- 四 多數ノ單桁ヲ竝置スル場合各桁ヲ一體トスル方法ヲ記述セリ(第五十一)
- 五 重桁ニ用フル材ニ就キ記述ス(第五十二)
- 六 重桁各材ノ連結ニハ「ボルト」、錠ヲ用ヒ或ハ之ヲ併用シ其連結ノ方法ハ桁ノ應力ニ適應セシムルコト必要ナリ(第五十三)
- 七 重桁ヲ冠材上ニ固定シ且重桁相互ヲ横ニ連接シテ安定セシムル方法ヲ記述ス(第五十四)
- 八 組桁ノ用途及組桁ニ用フル材質等選定ノ要領ヲ示ス(第五十五)
- 九 組桁結構ノ方法ヲ示ス(第五十六)
- 十 組桁ヲ橋礎材又ハ冠材上ニ設置連結スル要領ニ就キ記述セリ(第五十七)
- 十一 組桁ノ維持ヲ確實ナラシムル爲桁相互ヲ横ニ連接シ且冠材上ニ安定セシムル方法ヲ記述ス(第五十八)

第二款 軌條桁、形鋼桁

一四

- 一 軌條桁ハ其材料ヲ得易キト結構簡單ナルトニ依リ屢々利用セララルモノトス然レトモ其特性トシテ屈撓大ナルモノナルニ注意スルコト必要ナリ(第五十九)
- 二 軌條桁ヲ用フル場合ノ張間決定ノ要領ヲ記述ス(第六十)
- 三 軌條桁ノ結構法特ニ軌條ノ排列法ヲ示ス(第六十一)
- 四 軌條桁ヲ用フル場合ノ橋脚ノ選擇及橋脚上ノ配置要領ヲ示ス(第六十二)
- 五 軌條桁ト冠材及軌條桁相互ノ連接安定法ヲ記述セリ(第六十三)
- 六 形鋼桁トハI形鋼、溝形鋼ヲ單獨ニ或ハ組合ハセテ桁ニ構成シタルモノニシテ取扱容易ナルト木材ニ比シ小断面ノ材ヲ以テ大ナル抗力ヲ有スルノ利アリ然レトモ張間十米以上ニ及フトキハ其結構複雑トナルヲ以テ通常張間十米以下ノ橋梁ニ適用スルモノトス(第六十四)

- 七 形鋼桁ノ排列法ヲ示ス(第六十五)
- 八 I形鋼二本以上ヲ以テ一桁ニ組合ハス場合ノ結構方法ヲ示ス(第六十六)
- 九 溝形鋼ヲ數箇併列シテ桁ヲ構成スル場合ノ結構方法ヲ示ス(第六十七)
- 十 形鋼桁ヲ横ニ相互連結スル要領ヲ示ス(第六十八)
- 十一 形鋼桁ヲ冠材上ニ設置スル要領ヲ示ス(第六十九)
- 十二 形鋼桁ヲ連結使用スル場合ノ橋脚ノ選擇及橋脚上ノ配置法ヲ示ス(第七十)

第三款 鋼板桁

- 一 鋼板桁ノ種類及適用ニ就キ記述セリ(第七十一)
- 二 鋼板桁ノ結構法ヲ示ス(第七十二)
- 三 鋼板桁ヲ冠材上ニ設置スル要領ハ概シテ形鋼桁ト同様ナルヲ以テ其法則ニ準スヘキ旨記述セリ(第七十三)

第四款 構 桁

一六

- 一 構桁ニハ木材ヲ主材トシテ結構セルモノト鐵材ヲ以テ結構セルモノトアリ而シテ適用スヘキ張間ハ結構、架設ノ難易ニ依リ自ラ限度アルヲ以テ其標準ヲ示セリ（第七十四）
- 二 木材ヲ主材トシテ急造スル構桁ノ結構法ヲ示ス（第七十五）
- 三 鐵材ヲ以テ結構スル構桁ハ各種各様アリテ其總テニ就キ記述シ難キヲ以テ制式重構桁、輕構桁ノミヲ掲ケタリ而シテ重（輕）構桁ノ細部ノ結構ニ關シテハ該取扱法ニ詳記セラレアルヲ以テ之ニ準據スヘキ旨記述セリ（第七十六）

第三節 斜撐材

- 一 斜撐材トハ從來合撐材ト稱呼セシモノヲ架橋教範ノ名稱ニ一致セシメタルモノト

ス

- 二 斜撐材ノ目的、用途ヲ示セリ(第七十七)
- 三 結構上ニ於ケル斜撐材ノ種類ヲ記述セリ(第七十八)
- 四 斜撐材ノ結構法ヲ示ス(第七十九)
- 五 斜撐材支點ノ結構法ヲ示ス(第八十)

第五章 上部結構

- 一 上部結構トハ桁上方ノ軌道及橋床結構ヲ稱ス
- 二 鐵道橋ハ桁上ニ枕木及軌條ヲ設置シ保線兵通過ノ爲ノ歩板ヲ敷置スルヲ以テ足レリトシ必要ニ依リ軍隊通過ノ爲ノ橋床ヲ設クルモノトス(第八十一)
- 三 鐵道橋上部結構ニ用フル枕木ハ特別ナルモノヲ必要トスルヲ以テ之カ選定ノ要領ヲ記述セリ(第八十二)

四 橋梁上ノ枕木間隔ハ普通ノ路盤上ノ間隔ヨリ縮小スルヲ要スルヲ以テ其間隔ノ標準

ヲ示セリ(第八十三)

五 縱枕木ノ用法及敷置法ニ就キ記述セリ(第八十四)

六 枕木ト桁トノ固定ハ特ニ確實ナルヲ要スルヲ以テ其要領ヲ記述セリ(第八十五)

七 縱枕木ノ固定法及縱枕木ニ軌條ヲ固定スル方法ニ就キ記述セリ(第八十六)

八 橋梁上ニ於ケル列車ノ脱線ヲ防止スル爲護輪軌條ノ必要ヲ記述セリ(第八十七)

九 鐵道橋ニ軍隊通過ノ爲ノ橋床ヲ設クル必要アルトキニ於ケル橋床結構ノ要領ヲ示ス

(第八十八)

第二篇 架橋作業

第一章 架橋ノ準備

要 則

- 一 周到適切ナル準備作業ハ架橋ノ爲特ニ重要ニシテ架設效程ニ影響スルトコロ大ナリ故ニ之ニ關スル法則ヲ詳記シ作業準備ニ遺憾ナカラシムルコトニ勉メタリ
- 二 架橋準備ノ必要ナル所以及其主ナル事項ヲ總括的ニ記述セリ(第八十九、第九十)

第一節 設計

要 旨

- 一 軍用鐵道橋ハ其特性上特ニ作戰上ノ要求ニ適應シ迅速且容易ニ架設シ得而モ其維持ヲ良好ナラシムル如ク著意シテ設計スルノ必要ヲ記述セリ(第九十一)
- 二 鐵道橋設計ノ順序ニ就キ記述セリ(第九十二)
- 三 橋梁ノ形式決定ハ設計ノ基礎ヲ成スモノナルヲ以テ特ニ周到ナルヲ要ス之カ爲形式選定上顧慮スヘキ要件ヲ明示シ準據ヲ與ヘタリ(第九十三)

第一款 設計荷重ノ決定

- 一 鐵道橋設計ノ爲考慮スヘキ荷重ノ種類ニ就キ記述セリ(第九十四)
 - 二 靜荷重ノ性質及値ニ就キ記述セリ(第九十五)
 - 三 動荷重ノ主ナルモノハ橋梁上ヲ通過スル列車重量ニシテ此荷重ハ機關車、車輛ノ種類ニ依リ異ナルモノトス從テ橋梁設計ニ方リテハ其線路ヲ通スル最大重量ノ機關車、車輛ニ就キ計算セサルヘカラス
- 然レトモ其機ニ臨ミ一々此等ヲ決定シ計算ヲ遂クルハ頗ル煩雜ナルヲ以テ本教範草案ニハ一定ノ標準荷重ヲ定メテ使用ニ便ナラシメタリ(第九十六)
- 四 衝擊荷重ニ就キ記述セリ(第九十七)
 - 五 風荷重ニ就キ記述セリ(第九十八)
 - 六 遠心荷重ニ就キ記述セリ(第九十九)

第一款 桁ノ設計

- 一 桁ノ設計ニ於テ決定スヘキ事項ヲ記述セリ(第百)
- 二 桁ニ働ク動荷重ハ孤立荷重ニシテ靜荷重ハ等配荷重ナリ桁ノ計算ニ方リ此兩者ヲ箇々ニ計算スルハ煩雜ナルヲ以テ動荷重ハ之ヲ等配荷重ニ換算シ兩等配荷重ノ和ヲ以テ桁ニ作用スル荷重トシ計算スルヲ便トス之カ爲本教範草案ニ於テハ動荷重及靜荷重ニ關スル最大屈撓能率及等配荷重ヲ表示シ設計ノ資ニ供セリ(第百一、第百二)
- 三 桁ノ配置法ハ列車重量ヲ均等ニ負擔シ橋軸ニ對シ左右等形ナラシムルヲ主眼トシ細部ノ要領ヲ記述セリ(第百三)
- 四 桁ニ用フル木材ノ截面每平方糎ニ於ケル屈撓安全荷重ヲ示ス(第百四)
- 五 組桁ニ用フル木材ノ屈撓安全荷重ノ値ヲ示ス(第百五)
- 六 木材桁設計ニ於ケル木材ノ横斷面寸法決定ノ要領及配置法ト所要寸法トノ關係ヲ記

述セリ(第百六)

七 桁受ヲ使用スル場合ノ桁計算上ノ張間ノ決定要領及頬杖ノ設置要領ヲ記述セリ(第百七)

八 桁ノ抗力ヲ増加スル爲ノ斜撐材ノ設計法ヲ示ス(第百八)

九 鐵材ヲ桁材ニ使用スル場合ノ設計諸元ニ就キ記述セリ(第百九)

第二款 橋脚ノ設計

一 橋脚ノ種類及結構決定ノ爲準據スヘキ事項ヲ記述セリ(第百十)

二 橋脚ニ作用スル靜荷重ニ就キ記述セリ(第百十一)

三 橋脚ニ作用スル動荷重ニ就キ記述セリ(第百十二)

四 脚材ノ計算ニ採用スル屈撓安全荷重ノ値ニ就キ記述セリ(第百十三)

五 列柱打止メノ算式ノ一例ヲ示ス(第百十四)

六 橋脚ノ設計ニ方リ冠材及蹠材ノ寸法ハ特ニ計算スルヲ要セサルヲ以テ構築上ノ顧慮ヨリ其幅及高サヲ柱材ト同一ナラシムレハ足ル旨記述セリ(第百十五)

第二節 材料ノ收集、整備及器材ノ準備

一 架橋材料特ニ木材ハ成ルヘク現地附近ニ於テ收集スルヲ可トスルヲ以テ之カ收集ノ著眼、材質選定ノ要領及伐採上ノ注意ヲ記述セリ(第百十六)

二 鐵線、鎚、釘及「ボルト」等ノ金具類ハ現地ニ於テ得難キヲ通常トスルヲ以テ追送スルノ必要アルコトヲ記述シ注意ヲ喚起セリ(第百十七)

三 架橋器材ノ收集及運搬ノ爲必要ナル注意事項ヲ記述セリ(第百十八)

四 架橋作業ニ於テ材料置場及材料加工場ヲ適切ニ選定シ之ヲ整備スルコト特ニ必要ナルヲ以テ其設備ニ關シ記述セリ(第百十九)

五 材料置場選定上顧慮スヘキ事項及設備ノ要領ニ就キ記述セリ(第百二十)

- 六 材料加工場選定ノ要領ニ就キ記述セリ(第百二十一)
- 七 器具、材料ノ掩蔽設備ニ就キ記述セリ(第百二十二)
- 八 収集シタル架橋材料ノ分類、整理ノ要領ヲ記述セリ(第百二十三、第百二十四)
諸材料ノ分類、整理ノ適否ハ爾後ノ作業ノ進捗ニ影響スルトコロ大ナルヲ以テ將來ヲ
顧慮シ特ニ周到ナル注意ヲ以テ行フコト肝要ナリ
- 九 架橋ノ爲船ヲ使用スル場合ニ於ケル點檢及整備ノ要領ヲ記述セリ(第百二十五)
- 十 架橋ニ用フル各種器具、機械ヲ豫メ點檢、整備スルコトハ架橋準備トシテ特ニ重要
ナル事項ナルニ拘ラス往々之ヲ等閑ニ附スル者アルヲ以テ其注意ヲ記述シ置ケリ(第
百二十六)

第三節 經 始

- 一 架橋作業ニ必要ナル經始ノ主ナルモノハ橋軸線、橋脚位置ノ標示及水準據點ノ設置

- トス故ニ此等ノ事項ニ關シ實施ノ要領ヲ示セリ
- 二 橋軸線ノ標示ノ方法ヲ記述セリ(第二百二十七)
 - 三 橋脚位置標示ノ方法ヲ記述セリ(第二百二十八)
 - 四 水準據點ノ設置ニ就キ記述セリ又此據點ハ全作業間ヲ通シ水準ヲ統一規正スル爲重
要ナルモノナルヲ以テ特ニ堅固ニ保存スルノ必要ヲ示セリ(第二百二十九)

第二章 架 設

第一節 橋脚ノ構築

要 旨

- 一 橋脚ハ橋梁ノ基礎ヲ成シ其構築作業ハ加橋作業ノ大部ヲ占ムルヲ以テ特ニ周密ニ記述スルコトニ勉メタリ

二 橋脚構築一般ノ注意事項ヲ記述セリ(第三百三十)

二六

第一款 列柱橋脚ノ構築

- 一 杭ニ使用スル木材選定ノ要領及長サノ決定ニ就キ記述ス(第三百二十一)
- 二 杭製作ノ方法特ニ打杭ニ方リ杭頭ノ潰裂ヲ防止スル手段及下方端末ノ挫折ヲ防ク爲ノ處置ニ就キ記述セリ又此等ノ補助材料例ヘハ鐵箍、鐵履ノ一例ヲ示シ杭準備ノ參考ニ資セリ(第三百二十二)
- 三 接續杭ノ構築ニ就キ記述セリ(第三百二十三)
- 四 心矢式ノ築頭ニ依リ打杭スル場合ノ杭頭ノ準備ニ就キ記述セリ(第三百三十四)
- 五 植杭用ノ築頭櫓、足場ノ構築及門橋ノ結構法ヲ記述セリ(第三百三十五)
- 六 門橋又ハ筏ニ依ル打杭ニ於ケル打杭位置ノ關係ニ就キ記述セリ(第三百三十六)
- 七 一杭列中ノ各杭ノ打入順序ニ就キ其標準ヲ示セリ(第三百三十七)

- 八 地上ニ直接据エ附ケタル築頭櫓ノ移動法ニ就キ記述セリ(第三百二十八)
- 九 門橋又ハ舟上ニ据エ附ケタル築頭櫓ノ移動法ヲ記述セリ(第三百二十九)
- 十 水深大ナルカ或ハ流速急ナル場合ニ杭ヲ植立スルコトハ特ニ困難ナルヲ以テ其方法ノ一例ヲ示シ作業ノ準據ヲ與ヘタリ(第四百十)
- 十一 築頭ヲ以テ砂地ニ植杭スルコトハ砂地ノ性質ニ依リ著シク困難ナルコトアリ斯カル場合射水法ニ依ルヲ有利トスルコトアルヲ以テ射水式ノ植杭法ヲ記述セリ(第四百十一)
- 十二 打止メノ測定法ニ就キ記述セリ(第四百十二)
- 十三 砂地ニ植杭シタル場合ノ杭脚ノ保護ハ特ニ必要ナルヲ以テ其方法ヲ記述セリ(第四百十三)
- 十四 打杭ニ依ラスシテ杭ヲ螺入スル方法ヲ記述セリ(第四百十四)
- 十五 冠材ノ裝著法ニ就キ記述セリ(第四百十五)

十六

列柱ヲ堅固ナラシムル爲ノ繫材裝著法ニ就キ記述セリ(第四百十六、第四百十七)

二八

十七

杭列相互ヲ橋梁縱方向ニ對シ強固ナラシムル爲ノ斜繫材及縱繫材ノ裝著ニ就キ記述セリ(第四百十八)

十八

杭列ニ冠材、繫材等ヲ取附クル爲ノ補助手段ニ就キ記述セリ(第四百十九)

十九

水深大ナル場所ノ列柱ニ斜繫材ヲ水面下深ク取附クルコトハ困難ナルヲ以テ其場合ニ於ケル補助手段ニ就キ記述セリ(第四百二十)

二十

橋脚ニ水切材ヲ附スル方法ヲ記述セリ(第四百二十一)

二十一

列柱ニ諸材ヲ裝著スルニ方リ杭ノ抗力ヲ減殺セサル如ク願慮スルコトノ必要ヲ記述セリ(第四百二十二)

第二款 架柱ノ構築及設置

- 一 架柱用木材選定ノ標準ヲ記述セリ(第一百五十三)
- 二 架柱ヲ構築スル爲ノ架床ノ準備ニ就キ記述セリ(第一百五十四)
- 三 架床ノ構築法ニ就キ記述セリ(第一百五十五)
- 四 架床上ニ於テ架柱ヲ構築スル要領ヲ示ス(第一百五十六)
- 五 架柱構築ノ爲ノ連結法ニ就キ記述セリ(第一百五十七)
- 六 架柱ヲ設置スヘキ位置ニハ特ニ堅固ナル基礎ヲ必要トシ其基礎ハ土質ニ應シ結構ヲ異ニセサルヘカラサルヲ以テ各種ノ土質ニ就キ其方法ヲ記述セリ(第一百五十八)
- 七 架柱設置一般ノ要領ヲ記述セリ(第一百五十九)
- 八 架柱ヲ現場ニ於テ組立テ設置スル方法(組立架柱)ニ就キ記述セリ(第一百六十)

第二款 匣臺及堆積枕木橋脚ノ構築

- 一 匣臺ノ構築法ニ就キ岸上ニ於テ豫メ結合シテ設置スル方法ト設置スヘキ位置ニテ組

- 立ツル方法トニ區分シテ記述セリ(第百六十一)
- 二 匣臺上ノ橋脚構成ニ就キ記述セリ(第百六十二)
 - 三 匣臺ノ組立設置ニ於ケル木材ノ連結法ヲ示ス(第百六十三)
 - 四 堆積枕木ヲ設クヘキ位置ノ基礎構成ニ就キ記述シ特ニ之ヲ齊一ニ均地シ要スレハ搗固シテ之ヲ堅固ニ構成スルノ必要ヲ示セリ又破壞セラレタル永久橋臺上ニ堆積枕木ヲ設クル場合ノ基礎構成ニ就キ附記セリ(第百六十四)
 - 五 最下層ノ枕木ノ排列設置法ハ上層ノ枕木堆積法ニ密接ナル關係アルノミナラス橋脚ノ抗力及維持ニ影響スルトコロ大ナルヲ以テ特ニ周到ニ構成セサルヘカラス之カ爲必要ナル注意及作業法ヲ記述セリ(第百六十五)
 - 六 堆積枕木構成ニ方リテハ豫メ各層ノ枕木ヲ選定區分スルコト必要ナルヲ以テ之カ注意ト枕木堆積法トニ就キ記述セリ(第百六十六)

第二節 桁ノ架設

要 旨

- 一 桁ノ架設法選定ノ要件ヲ示シ特ニ人員、器材ヲ有利ニ使用シテ迅速容易ニ架設スル
コトニ勉ムルノ要ヲ記述セリ(第六十七)
- 二 桁ノ架設ニ方リテハ人員、時間ヲ節約シテ作業ヲ迅速容易ナラシムル爲各種力作器
材ヲ應用スルニ勉ムヘキコトヲ記述セリ(第六十八)

第一款 單桁、重桁及組桁ノ架設

- 一 頭方作業ニ依ル桁ノ架設法ヲ示セリ而シテ此際ニ於ケル挺子、轉子、起重機ノ利用
法ヲ具體的ニ記述セリ(第六十九)
- 二 起重機ヲ利用シ側方作業ニ依リ桁ヲ架設スル方法ヲ記述セリ而シテ此方法ハ乾燥地
障ニ於ケル架設ニ適用セラルモノトス(第七十)

三 水中ニ於テ側方作業ニ依ル桁架設ノ要領ヲ記述セリ(第七十一)

三二

第二款 軌條桁及形鋼桁ノ架設

- 一 軌條桁及形鋼桁ノ組立テタルモノハ重量相當大ニシテ取扱困難ナルヲ以テ豫メ組立テタルモノヲ架設スルコトナク單一ノ軌條又ハ形鋼ヲ逐次設置シ次テ之ヲ組合ハスヲ可トスル旨記述セリ(第七十二)
- 二 單一ノ軌條、形鋼ヲ設置スル要領ヲ記述セリ(第七十三)

第三款 鋼板桁ノ架設

- 一 長大ナル鋼板桁ノ各種架設方式ヲ記述セリ(第七十四)
- 二 張間ノ全長ニ互リテ足場ヲ構成シ之ニ托シテ桁ヲ架設スル方法(足場式架設法ト稱ス)ニ於ケル足場ノ構築法、桁推進ノ設備法及桁ノ架設法ヲ記述セリ(第七十五)

- 三 手延桁ノ補助ニ依リ鋼板桁ヲ架設スル方法(手延式架設法ト稱ス)ニ於ケル手延桁ノ構造及架設ノ要領ヲ記述ス(第七十六)
- 四 二連ノ桁ヲ接續シ其上ニ帆柱ヲ立テ鋼索ニテ懸吊シテ推進架設スル方法(帆柱式架設法ト稱ス)ニ就キ帆柱ノ設置法、桁ノ推進及架設法ヲ記述セリ(第七十七)
- 五 兩橋脚ニ堅固ナル支點ヲ設ケ鋼索ヲ張り其上ニ桁ヲ推進シテ架設スル方法(網渡式架設法ト稱ス)ニ就キ記述セリ(第七十八)
- 六 操重車ニ依リ桁ヲ懸吊シテ推進架設スル方法(操重車式架設法ト稱ス)ニ就キ記述セリ(第七十九)

第四款 構桁ノ架設

- 一 構桁架設方式ノ種類ニ就キ記述セリ(第八十)
- 二 足場ニ依リ構桁ヲ架設スル場合ニ於ケル足場ノ結構法及桁ノ組立要領ヲ記述セリ

(第百八十一、第百八十二)

三 構桁組立用起重機ノ結構法ヲ示ス(第百八十三)

四 構桁ヲ岸上ニ於テ豫メ組立テテ推進架設スル場合ノ方法ハ鋼板桁ノ推進架設法ヲ準用スレハ可ナルヲ以テ之ニ準據スヘキ旨記述セリ(第百八十四)

第五款 斜撐材ノ架設

一 足場ヲ設置シテ行フ斜撐材ノ組立法ヲ記述セリ(第百八十五)

二 兩橋脚間ニ簡單ナル桁ヲ渡シ之ヲ補助トシテ斜撐材ヲ架設スル要領ヲ記述セリ(第百八十六)

三 吊足場ニ依ル場合ノ足場ノ結構要領ニ就キ記述セリ而シテ此吊足場ハ成ルヘク簡單ナル方法ヲ考案シ之ニ要スル作業力ヲ減少スルニ勉ムルノ注意ヲ必要トス(第百八十七)

第三篇 鐵道橋ノ破壞及修理

第一章 破壞

- 一 敵ノ鐵道利用ヲ長時日ニ互リ阻止セントスル場合ニ於テハ其修理ノ困難ナル箇所ヲ選定シテ破壞スルコト必要ニシテ鐵道橋ハ破壞點トシテ選定セラルル場合多ク破壞ノ價值亦大ナルモノトス(第百八十八)
- 二 鐵道橋破壞法ノ種類及破壞法選定ノ要領ヲ記述シ方法決定ノ準據ヲ與ヘタリ又破壞ト同時ニ附近ニ現存スル渡河材料及補修材料ヲモ併セ破壞、燒却又ハ搬去セハ敵ノ修理ヲ困難ナラシメ得ルヲ以テ其注意ヲ記述セリ(第百八十九)
- 三 鐵道橋ノ破壞位置選定ノ要領ヲ記述セリ(第百九十)
- 四 鐵道橋ノ爆破ノ方法ニ關シ鐵道橋ノ種類及破壞位置ノ區分ニ從ヒ詳述シ作業實施ノ

準繩ヲ與ヘタリ(第九十一)

五 燒夷ニ依ル破壊ノ方法ヲ記述セリ(第九十二)

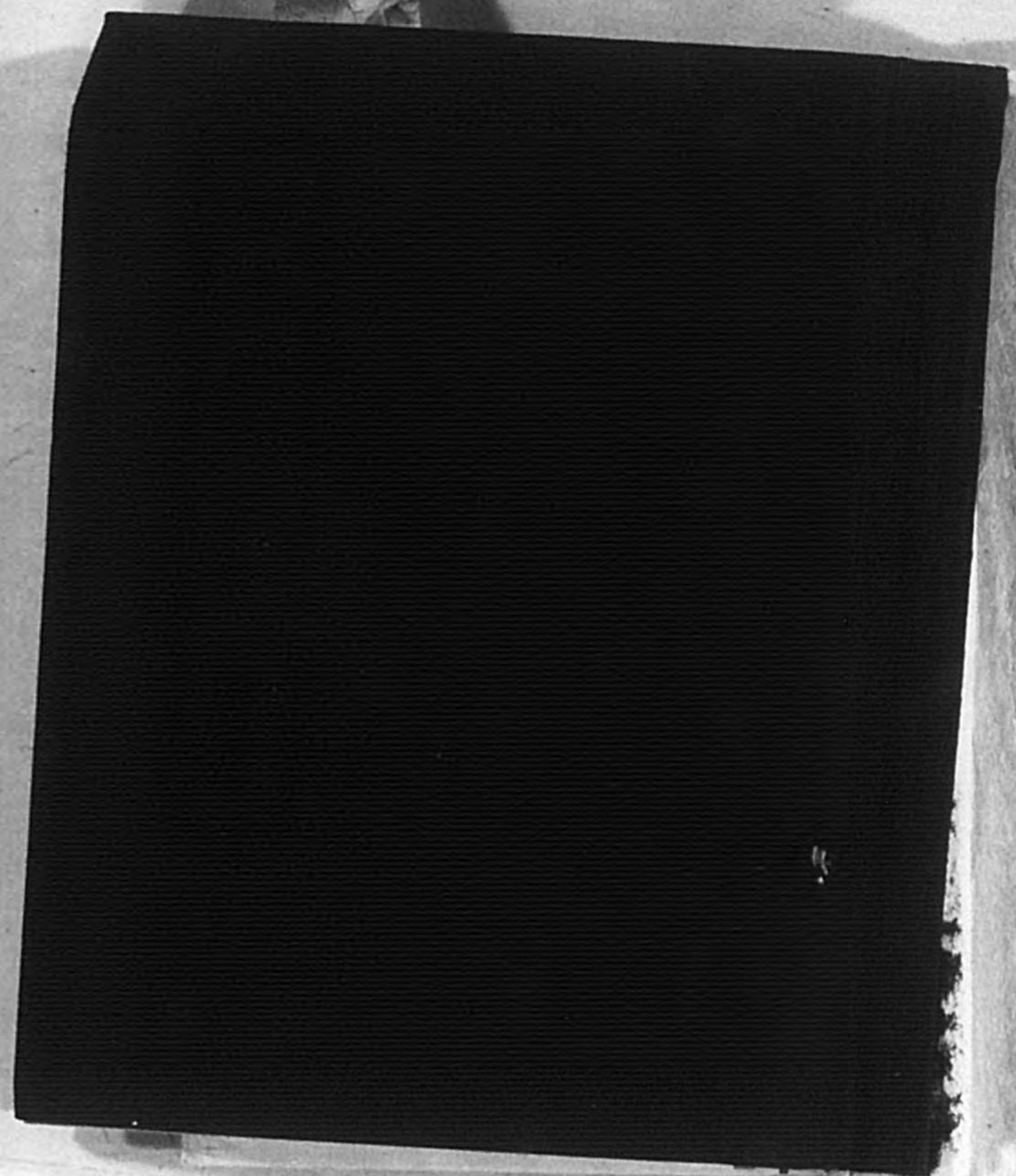
六 戰場附近ノ鐵道橋破壊ニ方リ事前ノ研究、準備ノ必要ヲ示セリ(第九十三)

第二章 修理

- 一 鐵道橋ノ修理ハ應急修理法ニ依リ簡單迅速ヲ旨トシ作戰上ノ要求ニ適應スルコト必要ナリ然レトモ作業ヲ急クノ餘リ重要部ヲモ粗略ニシ運轉開始後ニ於テ多クノ補修、改築ヲ要シ運轉ノ圓滑ヲ缺クカ如キハ大局ヨリ考ヘテ適當ナラサルヲ以テ此等ノ取捨判別ヲ適正ニスルノ必要ヲ記述セリ(第九十四)
- 二 修理ノ方法選定上ノ要件ヲ記述セリ(第九十五)
- 三 橋脚修理一般ノ要領ニ就キ記述シ作業方針確定上ノ準據トセリ(第九十六)
- 四 巧堵製永久橋脚修理ノ要領ヲ記述セリ(第九十七)

- 五 木製列柱橋脚修理ノ要領ヲ記述セリ(第九十八)
- 六 鐵製ノ柱材ヨリ成ル橋脚修理法ヲ示ス(第九十九)
- 七 石材ヲ用ヒタル橋脚ノ修理法ヲ示ス(第二百)
- 八 桁ノ破壊セラレタルモノハ其儘使用スルコト困難ナルヲ通常トスルヲ以テ橋脚ヲ増設シ新ニ構築スルコト屢々ナル旨記述セリ(第二百一)
- 九 木材桁ノ破壊セラレタル場合ノ修理法ヲ記述セリ(第二百二)
- 十 鋼板桁ノ破壊セラレタル場合ノ修理法ヲ記述セリ(第二百三)
- 十一 鐵製構桁ノ破壊セラレタル場合ノ修理法ヲ記述セリ(第二百四)
- 十二 破壊セラレタル鐵道橋諸材料ヲ利用シテ修理ヲ行フコト困難ナル場合ニ於テハ他ノ材料ヲ以テ急造スルヲ可トスルコトアルヲ示ス(第二百五)
- 十三 破壊橋梁諸材ノ除去法ニ就キ記述ス(第二百六)
- 十四 破壊セル材料ノ除去困難ナルトキハ架橋點ヲ他ニ移シテ別ニ橋梁ヲ架設スルヲ有

44



鐵道教範草案 鐵道橋目次

通則	一
第一篇 鐵道橋各部ノ結構	三
通則	三
第一章 橋礎ノ結構	三
第二章 橋脚ノ結構	五
要則	五
第一節 列柱	六
第二節 架柱	九
第三節 匣臺及堆積枕木	三
第三章 防護設備	四
第四章 桁受及桁ノ結構	九

目次

要則	一九
第一節 桁受	一九
第二節 桁	二四
第一款 單桁、重桁、組桁	二四
第二款 軌條桁、形鋼桁	二四
第三款 鋼板桁	三五
第四款 構桁	四一
第三節 斜撐材	四一
第五章 上部結構	四四
第二篇 架橋作業	四六
第一章 架橋ノ準備	五一
要則	五一
第一節 設計	五一

要旨	五一
第一款 設計荷重ノ決定	五一
第二款 桁ノ設計	五二
第三款 橋脚ノ設計	五六
第二節 材料ノ收集、整備及器材ノ準備	六二
第三節 經始	六四
第二章 架設	六七
第一節 橋脚ノ構築	六九
要旨	六九
第一款 立柱橋脚ノ構築	七〇
杭ノ準備	七〇
植杭作業	七〇
冠材及繫材ノ取附	八一

第二款 架柱ノ構築及設置	六
架柱ノ構築	六
架柱ノ設置	九〇
第三款 匣臺及堆積枕木橋脚ノ構築	九一
第二節 桁ノ架設	九五
要旨	九五
第一款 單桁、重桁及組桁ノ架設	九五
第二款 軌條桁及形鋼桁ノ架設	一〇〇
第三款 鋼板桁ノ架設	一〇〇
第四款 構桁ノ架設	一〇六
第五款 斜撐材ノ架設	一〇七
第三篇 鐵道橋ノ破壞及修理	一一三
第一章 破壞	一一三

附表

第二章 修理	二六
第一款 軌條桁ニ於ケル軌條排列法ト許容張間表	二六
第二款 鋼板桁重要諸元表	二六
第三款 木材桁ヲ用フル急造鐵道橋靜荷重表	二六
第四款 動荷重ニ基ク最大屈撓能率及換算等配荷重表	二六
第五款 靜荷重ニ基ク最大屈撓能率及等配荷重表	二六
第六款 總荷重ニ基ク最大屈撓能率及換算等配荷重表	二六
第七款 普通鐵道橋各徑間ニ應スル矩形角材桁ノ所要員數及角徑表	二六
第八款 普通鐵道橋各徑間ニ應スル正方形角材桁ノ所要員數及角徑表	二六
第九款 普通鐵道橋各徑間ニ應スル兩面ヲ附シタル丸太桁ノ所要員數及中徑表	二六
第十款 普通鐵道橋各徑間ニ應スル丸太桁ノ所要員數及中徑表	二六

- 第十一 輕便鐵道橋各徑間ニ應スル各種桁材所要員數及角徑表
 - 第十二 方形角材ヨリ成ル組桁ノ普通鐵道橋ニ於ケル徑間表
 - 第十三 矩形角材(幅ハ高サノ四分ノ三)ヨリ成ル組桁ノ普通鐵道橋ニ於ケル徑間表
 - 第十四 兩面ヲ附シタル丸太ヨリ成ル組桁ノ普通鐵道橋ニ於ケル徑間表
 - 第十五 I形鋼ノ抵抗能率表
 - 第十六 L形鋼ノ抵抗能率表
 - 第十七 橋脚負擔荷重表
- 附圖
- 第一 地上ニ橋礎材ヲ配置シタル橋礎ノ一例
 - 第二 堆積枕木ヲ以テ結構セル橋礎ノ一例
 - 第三 列柱ニ依ル橋礎ノ一例

- 第四 列柱ニ依ル橋礎及橋礎被覆ノ一例
- 第五 「コンクリート」橋礎
- 第六 單列柱
- 第七 支杭ヲ有スル單列柱
- 第八 水平繫材ヲ施セル單列柱
- 第九 複列柱
- 第十 簡單ナル群列柱
- 第十一 高サ大ナル群列柱
- 第十二 小ナル構桁橋脚ニ用フル群列柱
- 第十三 比較的大ナル構桁橋脚ニ用フル群列柱
- 第十四 重疊列柱
- 第十五 重疊列柱
- 第十六 架柱(脚材垂直ナルモノ)

- 第十七 架柱(脚材傾斜セルモノ)
- 第十八 三箇ノ桁ヲ受クル架柱
- 第十九 高サ大ナル架柱
- 第二十 二本ノ脚材ヲ以テ一桁ヲ支フル架柱
- 第二十一 脚材ヲ傾斜セシメタル高サ大ナル架柱
- 第二十二 枕木ヲ以テ結構シタル架柱
- 第二十三 複架柱(二箇)
- 第二十四 複架柱(高サ大ナル一例)
- 第二十五 構桁橋脚ニ用フル大ナル複架柱ノ一例
- 第二十六 架 棧
- 第二十七 架 棧
- 第二十八 架 棧
- 第二十九 架 棧

- 第三十 架 棧
- 第三十一 架 棧
- 第三十二 架 棧
- 第三十三 匣 臺
- 第三十四 低キ堆積枕木
- 第三十五 堆積枕木(傾斜ヲ附スル如ク堆積シタルモノ)
- 第三十六 階段狀ニ堆積シタル堆積枕木
- 第三十七 堆積枕木連結法ノ一例
- 第三十八 流水除(比較的簡易ナルモノ)
- 第三十九 流水除(稍、堅固ナルモノ)
- 第四十 流水除(複列柱ヨリ成ルモノ)
- 第四十一 重 桁
- 第四十二 重 桁

第四十三 重桁
 第四十四 重桁
 第四十五 組桁
 第四十六 組桁
 第四十七 組桁
 第四十八 組桁
 第四十九 組桁
 第五十 組桁
 第五十一 軌條桁
 第五十二 軌條桁
 第五十三 軌條桁
 第五十四 「ボルト」ニ依ルI形鋼桁連結ノ一例
 第五十五 I形鋼ヲ以テI形鋼桁ヲ連結ル一例

第五十六 形鋼桁配置法ノ一例
 第五十七 斜撐材
 第五十八 斜撐材
 第五十九 斜撐材
 第六十 重複斜撐材
 第六十一 斜撐材ヲ以テ既設橋梁抗力ヲ増加ノ一例
 第六十二 橋脚位置決定及點檢ノ爲河岸ニ設クル補助設備
 第六十三 舷側打杭門橋
 第六十四 打杭用門橋
 第六十五 動力築頭槽用門橋
 第六十六 流速急ナル位置ノ打杭設備
 第六十七 水切材
 第六十八 架床

- 第六十九 帆柱式架設法
- 第七十 操重車式架設法
- 第七十一 構桁組立用足場一般圖
- 第七十二 移動起重機ニ依ル構桁組立用足場圖
- 第七十三 軌間一米五二四鐵道ニ用フル鐵道橋ノ一例
- 第七十四 銅板桁修理要領
- 第七十五 構桁修理要領

鐵道教範草案 鐵道橋 目次 終

鐵道教範草案 鐵道橋

通則

第一 本教範草案ハ主トシテ軍用鐵道建設ニ際シ急造スル鐵道橋ノ架設及破壞セラレタル鐵道橋ノ應急修理ノ方法ヲ掲ケ簡易迅速ナル架設作業ヲ以テ神速機敏ナル作戦ノ要求ニ合致セシムルヲ本則トス

第二 教範中ニ示ス橋梁各部ノ主要ナル名稱ニ關スル規定左ノ如シ

橋礎トハ兩岸ニ於ケル橋梁端末ノ支點ヲ謂ヒ橋脚トハ兩岸橋礎間ニ於ケル橋梁中間ノ支點ニシテ桁ト共ニ橋梁下部ノ結構ヲ成形スルモノヲ謂フ

上部結構トハ軌道、敷板、欄干等橋梁上部ノ結構ヲ總稱ス

橋軸トハ橋梁縱方向ニ於ケル中央線ヲ謂フ

橋脚トハ桁ノ兩端ヲ支持スル此處兩橋脚ノ中央ヨリ中央ニ至ルヲ橋梁ノ部分ヲ謂ヒ橋脚ノ長サヲ張間ト稱ス
 經間トハ橋脚頭部ノ内側面相互ノ間隔ヲ、支間トハ桁ノ支點間ニ於ケル距離ヲ謂フ

- 第三 軍用鐵道橋ハ通常水平且直線ニ架設スルヲ本則トス
- 第四 軍用鐵道橋ハ狀況ニ依リ軍隊ノ通過ヲ容易ニ爲ス如ク構築スルコトアリ

第一篇 鐵道橋各部ノ結構

通則

第五 軍用鐵道橋ハ勉メテ其結構ヲ簡單ニシ架設迅速ナルヲ要ス之カ爲メ行、組立容易ナル構桁、鋼板桁或ハ形鋼、軌條、木材等ヲ用ヒテ結構スルモノトス

第一章 橋礎ノ結構

- 第六 橋礎ハ橋梁ノ桁材ヲ確實ニ負擔スルト共ニ接續路盤ト橋梁トノ接著ヲ確實ニシテ上部建築ヲ安全ナラシムル如ク結構スルコト必要ナリ
- 第七 橋礎結構ノ要領ハ橋礎ヲ設クヘキ位置ノ土質及桁ノ種類ニ依リ異ナルモ通常地上或ハ堆積枕木又ハ列柱上ニ橋礎材ヲ配置シテ桁ノ支點ト爲シ

其側面及後方ヲ枕若ハ板ヲ以テ被覆スルモノトス時トシテ煉瓦、コンクリ
 ト等ヲ以テ壁ヲ構築スルコトアリ

第八 張間小ニシテ且堅固ナル自然地ニ橋礎ヲ設クル場合ニ於テハ橋礎材
 ヲ地上ニ配置シテ簡單ニ之ヲ結構ス(附圖第一)

第九 橋礎ヲ設クヘキ位置ノ土質堅固ナラサルカ或ハ急速ニ高キ橋礎ヲ構
 築スル等ノ場合ニ於テハ枕木、角材或ハ丸太ヲ積ミ重ネテ橋礎ノ基礎ヲ設
 ク其結構要領附圖第二ノ如シ

第十 橋礎ヲ設クヘキ位置ノ土質特ニ堅固ナラサルトキ或ハ橋梁カ新ニ積
 堆セル築堤ニ接續スルトキニ於テハ列柱ヲ打入シ其上ニ橋礎材ヲ配置ス面
 シテ堅固ナル土地ニ在リテモ橋礎ヲ強固ナラシムル爲ニハ勉メテ列柱ニ依
 ルヲ有利トス

列柱ハ通常單列柱又ハ複列柱ヲ以テ結構シ前壁及袖壁ヲ以テ保護ス(附圖
 第三)

低キ築堤ニ在リテハ橋礎ヨリ離隔シテ前壁及袖壁ヲ設クルコトアリ(附圖
 第四)

第十一 煉瓦又ハコンクリートヲ以テ橋礎ヲ構築シ土地ノ被覆ヲ兼ネシ
 ムルコトアリ此場合橋礎材ハ固定「ボルト」ニ依リ連結スルヲ可トス(附圖
 第五)

第二章 橋脚ノ結構

要 則

第十二 橋脚ハ其兩側橋節ノ重量及列車ノ重量ニ對シ支撐點ヲ成スモノト
 ス

第十三 鐵道橋ノ橋脚ニハ列柱、架柱、匣臺及堆積枕木等ヲ用フ
 列柱ハ負擔力比較的大ニシテ其維持堅固ナルモ地障ノ狀況ニ依リテハ植枕

鐵道橋各部ノ結構 橋脚ノ結構

困難ニシテ構築ニ多クノ日時ヲ要スルコトアリ
架柱ハ列柱ニ比シ負擔力及維持力劣ルモ植杭困難ナル場合ニ於テモ迅速ニ
構築シ得ルノ利アリ

匣臺ハ地障ノ底質如何ニ拘ラス構築シ得ルノミナラス流水、波浪ニ對スル
維持堅固ナルモ多數ノ材料ヲ必要トス

堆積枕木ハ結構簡單ニシテ最モ迅速ニ構築シ得ルノ利アルモ流水等ニ對ス
ル維持堅固ナラサルノ不利アリ

第十四 各種橋脚ノ選擇及結構法ハ地障ノ景況、材料ノ種類、數量及作業
人員並時間ノ多寡等ニ依リ決定スヘキモノニシテ其結構ハ常ニ簡單堅牢ニ
シテ且列車速度ニ依ル衝擊、流水、流下物等ニ對シテモ安全ナルヲ要ス

第一節 列柱

第十五 列柱ハ地中ニ打入セル杭、杭上ニ冠セル冠材及各杭ヲ連結セル繫

材ヲ以テ構成ス

第十六 列柱ノ杭ノ數ハ張間ノ長サ、通過列車ノ重量、杭及土地ノ負擔力
等ヲ顧慮シテ決定スルモノトス

第十七 列柱ヲ分チテ單列柱、複列柱、群列柱及重疊列柱トス

單列柱ハ一列ノ杭列、複列柱ハ二乃至數杭列、群列柱ハ群集セル杭ヲ以テ
一橋脚ヲ成セルモノヲ謂ヒ重疊列柱トハ下方ノ基礎杭列ト其上方ニ冠セル
上層杭列トヲ以テ一橋脚ヲ構成セルモノヲ謂フ

第十八 單列柱ハ比較的小ナル張間ノ橋梁ニ使用スルモノトス

單列柱ノ杭ノ排列法ハ列柱ノ高サ、桁數等ニ依リ異ナルノ外桁ノ排列法ニ
適應セサルヘカラス又各杭中心相互ノ間隔ハ五十浬以上トシ桁材下方トナ
ルヘキ杭(負杭ト稱ス)ハ垂直ナルヲ要ス(附圖第六)

列柱ノ側方動搖ヲ防ク爲外側ニ一分ノ五乃至一分ノ十ノ傾斜ヲ有スル杭ヲ
設ケ(支杭ト稱ス)或ハ斜繫材ヲ施シ又ハ此兩者ヲ併用スルモノトス(附圖